ハザードマップポータルサイトの使用方法

 （ハザードマップポータルサイト）

○重ねるハザードマップとわがまちハザードマップの2つが出てきます。

重ねるハザードマップに自事業所や自宅住所を入力すると、洪水、土砂災害、高潮、道路防災、津波、地形分類などが出てきます。

最初の地図にそれぞれの項目をクリックしていくと、どの場所で危険性が高いのか、過去にどんな災害があるのかが出てきます。

・効果的な使用方法としては住所を入力して、一つ一つの項目にチェックを入れて確認するという流れです。

例えば淡路デイでは、土砂災害や津波、道路防災は問題ないですが洪水と高潮に関しては色が付きます。（神田川を含めた各種河川があり、過去に氾濫があった為）また地形分類をクリックすると**この地形の自然災害リスク**も出てきます、例えば淡路デイだと「通常の洪水では浸水を免れることが多い。縁辺部では強い地震によって液状化しやすい」と出てきます

枝川デイなどは「地盤が軟弱である。液状化のリスクが大きい。沿岸部では高潮に注意。」と出てきます。

ポイントは自事業所ピンポイントで見るのではなく送迎範囲で確認することが重要です。

今回大きな被害を出した熱海市伊豆山で調べると、下部の**この地形の自然災害リスク**：大雨や地震により、崖崩れや土石流、地すべりなどの土砂災害のリスクがあると出てきます。

もう一つのわがまちハザードマップでは各自治体の詳細なハザードマップが確認できます。

洪水・高潮だけではなく、一昨年の豪雨で多摩川が氾濫し、住宅地に被害をもたらした**内水ハザードマップ**も確認できます。

例えば喜多見デイは多摩川が洪水により氾濫した場合は5ｍ～10ｍ（屋根の高さ）になり、内水氾濫の場合は0.5ｍ～1ｍ（1階の床上）と確認できます。

上記から喜多見デイは内水氾濫の可能性が高く、洪水の氾濫が起きた場合は隣の喜多見小に逃げても、それ以上に水位になる可能性があり逃げる時は、どの方向に避難するのかもハザードマップに記載されてます。

梅雨時期を迎え、これから台風シーズンに入って参りますのでこの機会にご確認お願い致します。

また自事業所だけではなく、ご家族で避難方法や避難場所などを話し合う際にも非常に役に立ちますので是非ご活用ください。